

## 岩手県における普通植物の分布

金井弘夫

184- 小金井市

### Distribution of Popular Plants in Iwate Prefecture, Northern Japan

Hiroo KANAI

Koganei-shi, Tokyo, 184- JAPAN

(Received on February 20, 2002)

Distribution of 31 popular plants (Tab. 1 and Figs. 2 to 17) in Iwate Prefecture, Tohoku district, northern Japan was surveyed in cooperation with local botanists. Plants having distribution density more than 30 % are equally spread over the prefecture, Those having less than 20 % density are lacking from Kitakami mountain region, occupying eastern half of the prefecture, in various amount. Thus *Paederia scandens* shows a disjunct distribution pattern in southern and northern parts. *Indigofera pseudotinctoria* is confined to southern part of the prefecture.

**Key words:** distribution, Iwate, popular plants.

岩手県における普通植物の分布調査を、2000–2001年に地域在住研究者の協力を得て行った。分布情報を提供していただいた泉館重雄氏、猪苗代正憲氏、上野達也氏、大森鉄雄氏、川村明子氏、小守一男氏、須川直義氏、鈴木 實氏、関根清正氏、藤元 淳氏、松本幸夫氏、八幡輝夫氏、吉田 繁氏に感謝する。とりわけ協力者の紹介をいただいた猪苗代正憲氏に重ねて謝意を表する。手法については金井（2001, 2002）を参照されたい。

#### 結 果

調査対象とした植物は、表1に示す31種である。得られた分布情報の数は総計7688件であった。本報では表示メッシュを5倍メッシュ（2.5万図の1/4で Locality Index 相当）（金井1972, 1979）とする。この場合県の全メッシュ数は671個である。有効メッシュ（なんらかの情報が得られたメッシュ）は412個（図1）、

有効メッシュ率は61.4 %である。この値はこれ迄の他県のそれとくらべると、一通りの調査が行われたことを意味している。情報の年代は1980年代以降が98 %を占めていたので、すべて一括して扱った。同様な調査が行われた福島県（金井2000. 有効メッシュ率68 %）、および秋田県（藤原2000. 有効メッシュ率97 %）の分布密度を、比較のため表1に示した。本調査は宮城県でも行っているが、調査対象種が今回のものと揃わないので示していない。

福島県と比較して、オオイタドリ（図4A）をのぞいて分布密度の減少が顕著である。オオイタドリは本来日本海側に分布の主体があり、福島県にくらべて本県では日本海側気候帯の植物の進出が、より顕著であることを示している。

この地域ではほぼ全面的に見られる種は、前記オオイタドリのほか、オオバコ（図5A）、クズ（図7A）、ゲンノシヨウコ（図7B）、シ

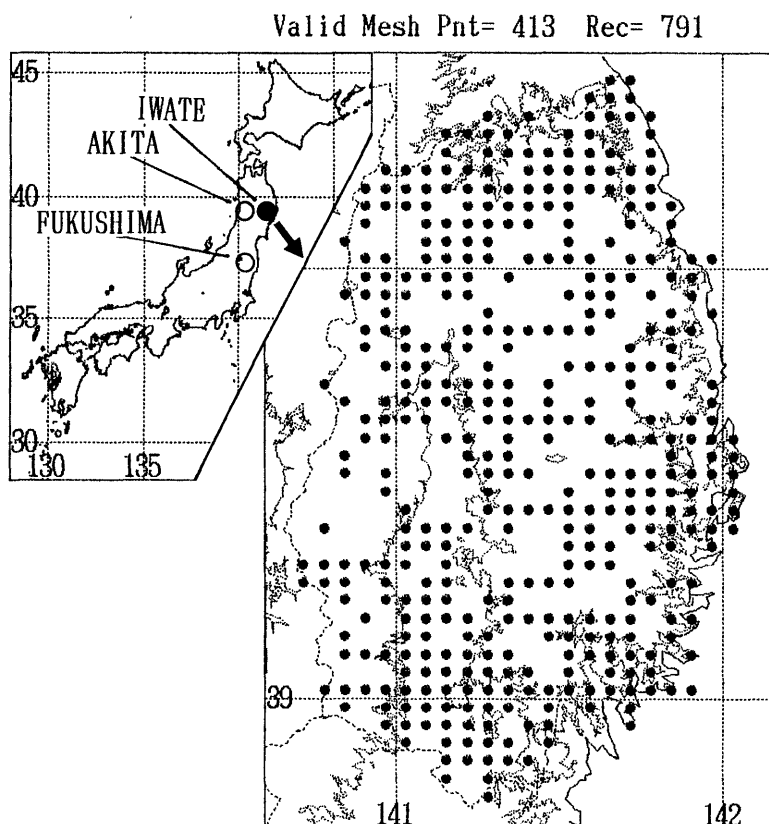


図 1. 有効メッシュ. 表示は 5 倍メッシュ相当. 等高線は 200 m と 1500 m. Valid mesh. Contour 200 and 1500 m.

ロツメクサ (図 8 B), ナワシロイチゴ (図 13 B), フキ (図 15 B), ヤマブキ (図 17 B) で、ほぼ 30 % 以上の分布密度を持つ種である。

偶生種とみられるもの (植物コードの後に・印を付す) 以外で分布密度の低い種 (\*印) の分布パターンは、北上川沿いの低地と県北の馬淵川沿いの低地を残して、北上山地の中・北部から減少する傾向がみられる。分布密度 20 % あたりからこの傾向は顕著になり、海岸沿いに南北がつながっているが、やがて南北に分断される。ヘクソカズラ (図 16 A) がその好例である。コマツナギ (図 8 A) は県南端にとどまっている。同様な現象は福島県の阿武隈山地についても見られた (金井 2000)。

前記の現象は、北上山地がとくに調査が行き届かなかった場合にも現れる可能性がある。1/5 万図相当区画ごとに有効メッシュ

率を計算した結果を図 2 A に示す。これによれば、北上山地が他地域よりも調査不足とは認められない。周辺地域をのぞいて地区としての有効メッシュ率がとくに低いのは、花巻市東部の毒ヶ森山系 (1/5 万図新町相当) の 12 % だった。

秋田県での分布 (藤原 1997) と比較してみると、ドクダミ (図 12 B), クサギ (図 6 B), チカラシバ (図 10 B) は秋田県ではほぼ全域に分布するのに対して、本県では北上盆地と県北の軽米・二戸の低地にはほぼ分断して分布している。ネムノキ (Fig. 14 B), ヤブカラシ (Fig. 17 A) も、秋田県の産量は少ないが、同じ傾向を示す。コマツナギは秋田県では沿岸を県北部まで分布するが、岩手県では南端地域にとどまっている (図 8 A)。

関東平野南部で常識的に選ばれた「普通植

表 1. 調査対象植物と分布密度. 配列は植物コード順. 植物コード: 環境庁1987の種番号 (Plant code, Environment Agency 1987). 情報数 (Record size): 植物産地の件数 (Number of record). 分布点数 (No. of point = P): 表示用メッシュ (本報では 5 倍メッシュ) において, その種が存在するメッシュの数 (Number of mesh with plant record). 分布密度 (Density =  $P/V$  %,  $V = 671$ ). .: 偶生的とみられ, 再確認を要する種 (Possibly an accidental species to be reconfirmed). +: 福島県と比較して分布密度の増加が認められる種 (Species with increased density compared with Fukushima Pref.). \*: 分布密度が約 20 % 以下の種. 北上山地を中心に減少が目立つ (Species with less than about 20% density)

植物名	Plant Name	植物コード Plant code	情報数 Record Size	分布点数 No. of Point (P)	分布密度 Density P/V %	分布密度		分布図 Fig.
						秋田県 Density in Akita	福島県 Fukushima	
全数	Total number		7685	671(V)				1
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	31350·	1	1	0.1	0.6	27.7	2B
アケビ	<i>Akebia quinata</i>	19210	280	176	26.2	0.4	53.7	3A
イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	14320	299	180	26.8	61.1	81.1	3B
オオイタドリ	<i>Reynoutria sachalinensis</i>	14360+	304	212	31.5	82.1	8.8	4A
オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	51420*	242	141	21.0	4.1	46.6	4B
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	52300	662	346	51.5	86.8	89.2	5A
カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	12600*	192	129	19.2	36.1	59.6	5B
キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	51690·	1	1	0.1	0	2.9	6A
クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	47850*	174	117	17.4	51.5	33.1	6B
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	29680	454	253	37.7	71.4	77.0	7A
ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	30630	496	285	42.4	81.0	79.7	7B
コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	28960*	7	6	0.8	3.9	29.7	8A
シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	29860	666	351	52.3	84.4	83.8	8B
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	52720*	181	102	15.2	13.9	43.6	9A
スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	14600*	147	100	14.9	20.1	37.5	9B
タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	21570	266	182	27.1	60.2	55.9	10A
チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	69520*	128	85	12.6	35.0	48.8	10B
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	15130*	163	111	16.5	33.8	31.9	11A
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	65090*	314	191	28.4	64.1	68.9	11B
テイカカズラ	<i>Tracherospermum asiaticum</i>	45190	0	0	0	0.2	26.2	12A
ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	19510*	185	118	17.5	55.3	62.0	12B
ナズナ	<i>Capsella bursapastoris</i>	21830*	180	123	18.3	10.5	40.9	13A
ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	27170	340	219	32.6	76.5	49.8	13B
ヌルデ	<i>Rhus javanica</i>	32260	255	172	25.6	71.1	64.7	14A
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	28220*	72	56	8.3	26.5	40.9	14B
ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>	54480	221	150	22.3	60.3	37.3	15A
フキ	<i>Petasites japonicus</i>	58870*	680	367	54.6	91.4	87.7	15B
ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	46740*	133	81	12.0	15.8	56.4	16A
ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>	60390*	197	135	20.1	40.2	50.0	16B
ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	34850*	116	72	10.7	7.7	38.7	17A
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	25390	329	200	29.8	9.6	48.0	17B

物」は, この地域にくると次第に「普通さ」を失い, 寒冷地により適応した種に次第に入れ代わってゆくことが見てとれる.

アカメガシワ (図 2 B) は玉山村旅行村で 2000 年 5 月 10 日に視認されている. 本種は宮城県中部までは記録されており, この産地はきわめてとび離れたものなので, 今後の再確認が必要である.

キツネノマゴ (図 6 A) は今回の調査では記録されなかった. 本種は笹村 (1967) が, 遠野産の標本 (29 July 1930, no. 4296) があることを記録している. 猪苗代正憲氏によれば, 笹村標本は彼の没後岩手県立博物館へ寄贈されたが, 整理が進行中で該当標本はまだ確認されていない. 東北地方におけるキツネノマゴは, 福島県では南北に分断して分布し

ており、山形、岩手、宮城県からは散発的な報告があるが、誤認や誤記録も混ざっている上、その出現は偶発的なものと思われる。国内産植物のこのような移動は、環境問題ともからんで注目する必要があるが、外来種のような関心を持たれていない。地域研究者の今後の注意深い観察と記録に期待したい。図6Aは笹村(1967)の記録から引用した。

#### 引用文献

- 金井弘夫 1972. 日本植物の分布型の研究(3) 産地の表示法について. 植物研究雑誌 **47**: 215-221.
- 1979. 日本地図および分布図作図プログラム KLIPS2 操作法. 国立科学博物館研究報告 B 類, **5**: 87-96.
- 2000. 福島県における普通植物の分布. 植物研究雑誌 **75**: 47-66.
- 2001. 山口県における普通植物の分布. 植物研究雑誌 **76**: 31-49.
- 2002. 山形県における普通植物の分布. 植物研究雑誌 **77**: 101-112.
- 環境庁 1987. 植物目録.
- 笹村祥二 1967. 岩手植物雑記. 岩手植物の会会報 (**4**): 14.
- 藤原陸夫 2000. 秋田県植物分布図第2版. 秋田県環境と文化のむら協会. 1196 pp.

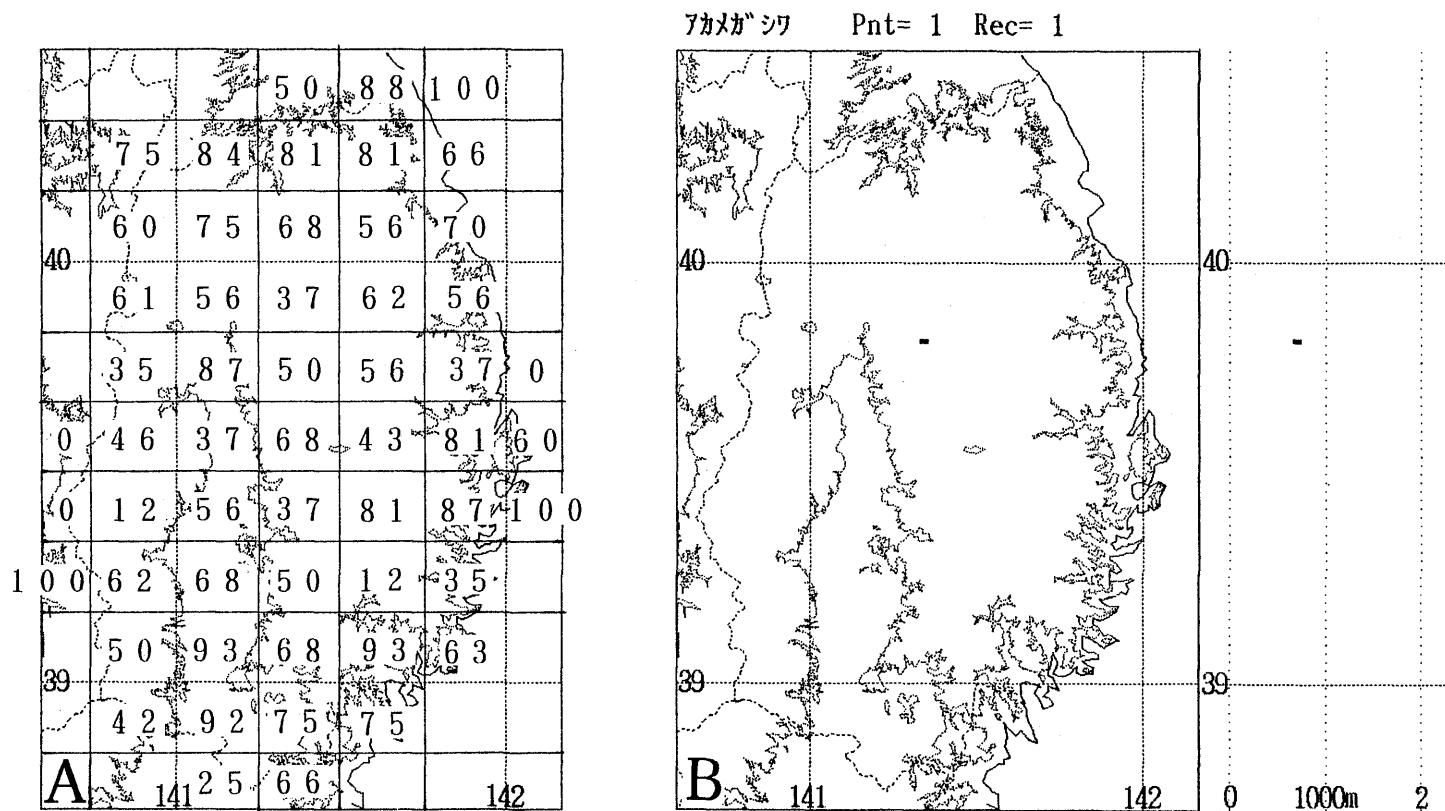


図 2. A: 地域ごとの有効メッシュ率. 5 万分の 1 図の範囲ごとに 5 倍メッシュによる有効メッシュ率を示す. Local valid mesh rate in %. B: *Mallotus japonicus*. ● 標本 (Specimen). + 文献 (Literature). - 視認 (Observation).

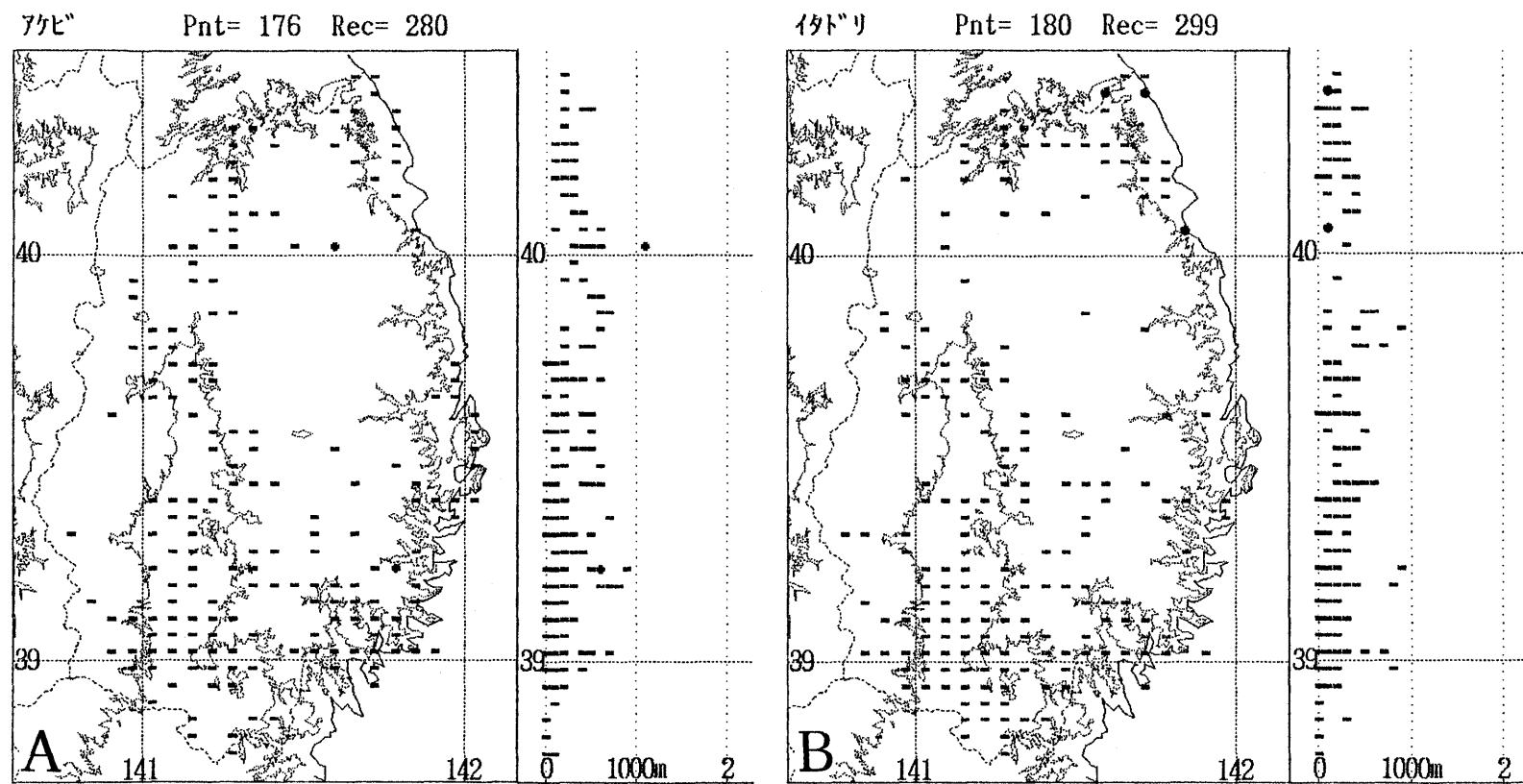
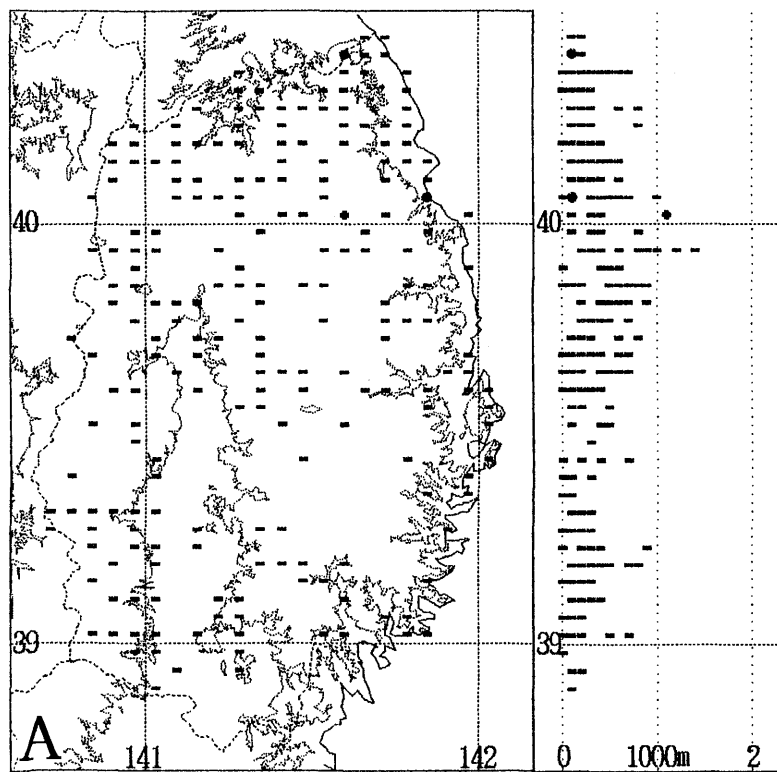


図 3. A: *Akebia quinata*. B: *Reynoutria japonica*. イタドリとケイタドリは区別していない.

オイトリ Pnt= 212 Rec= 304



オイヌフグリ Pnt= 141 Rec= 242

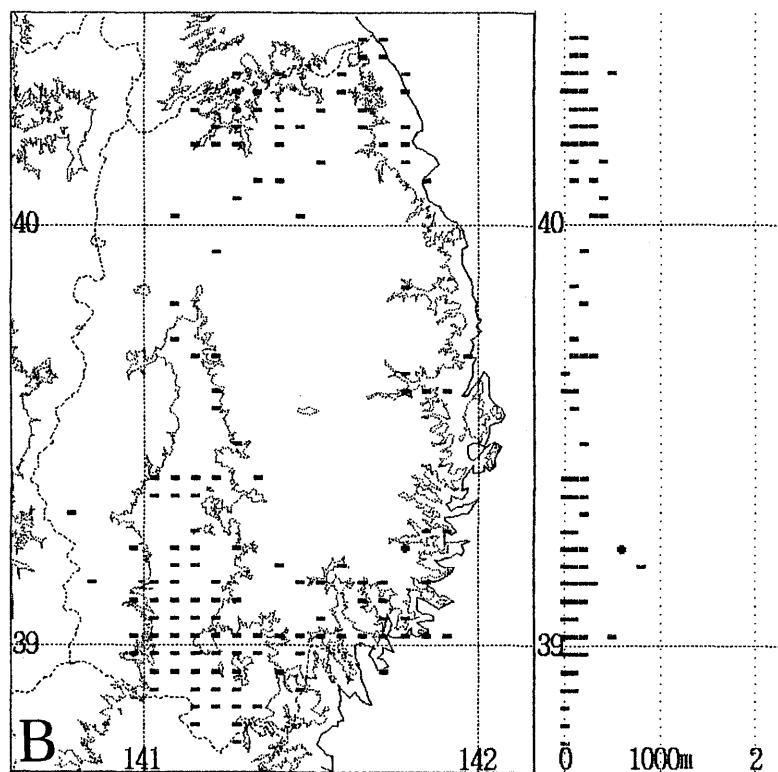


図 4. A: *Reynoutria sachalinensis*. B: *Veronica persica*.

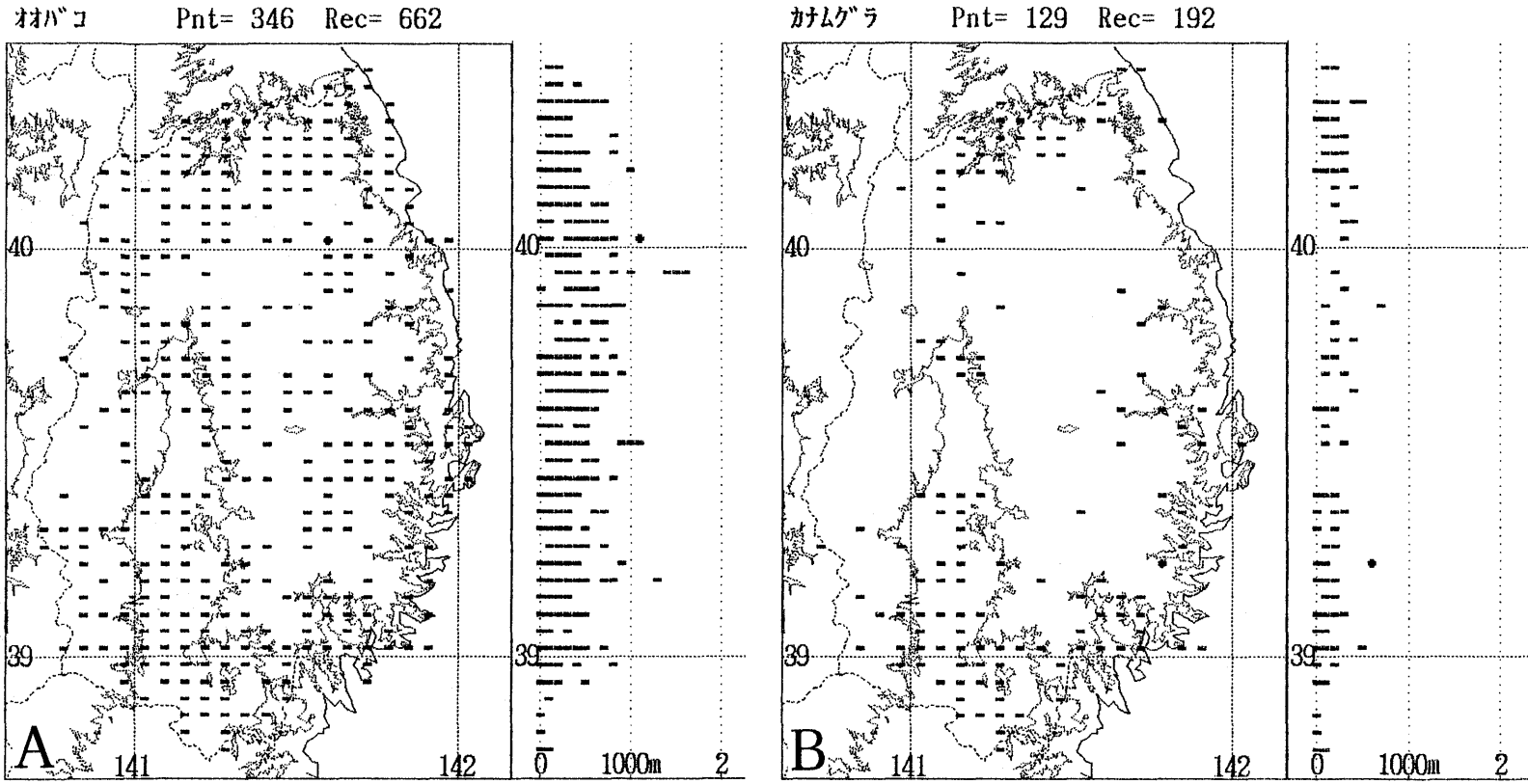


図 5. A: *Plantago asiatica*. B: *Humulus japonicus*.

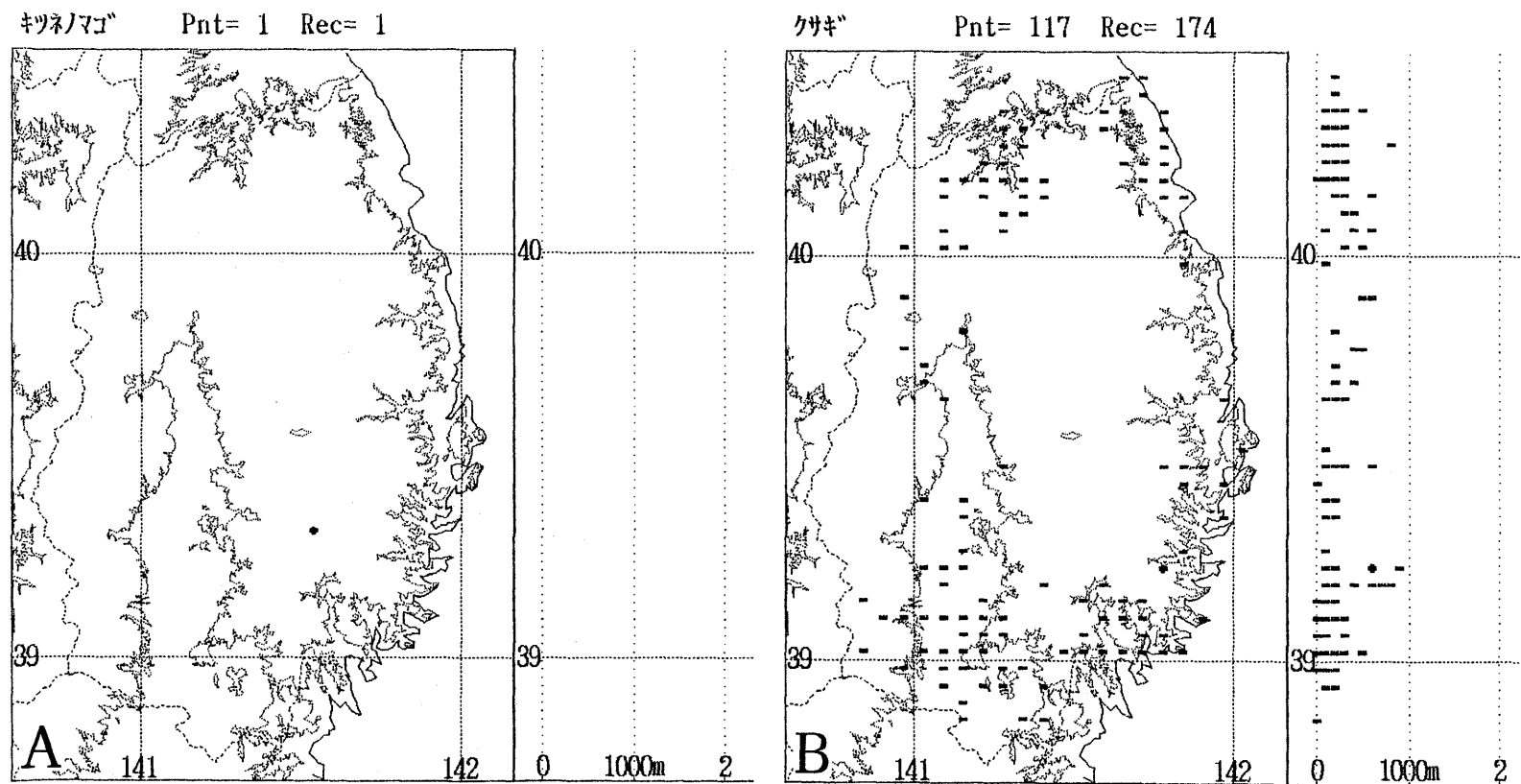


図 6. A: *Justicia procumbens*. B: *Clerodendrum trichotomum*.

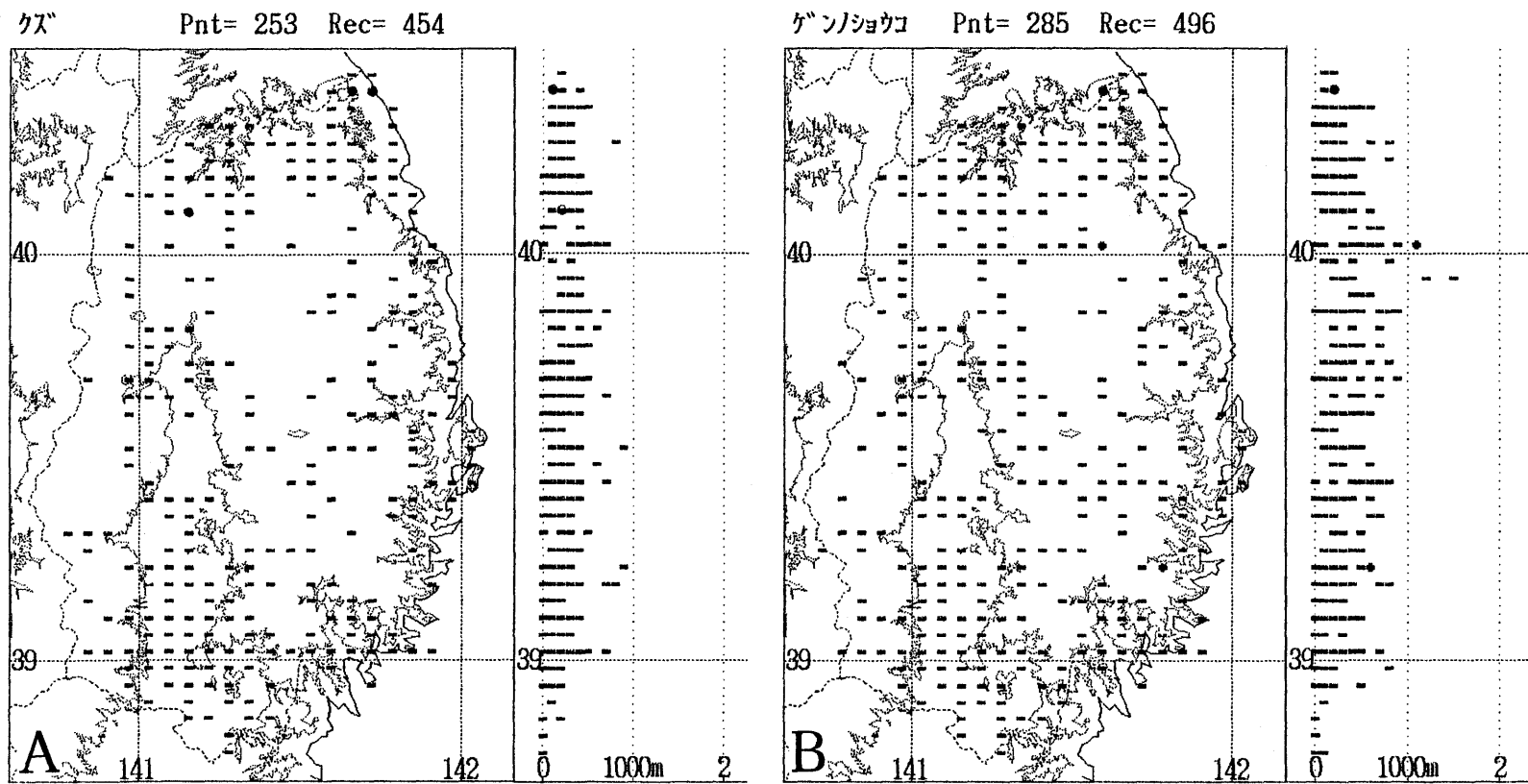


図 7. A: *Pueraria lobata*. B: *Geranium thunbergii*.

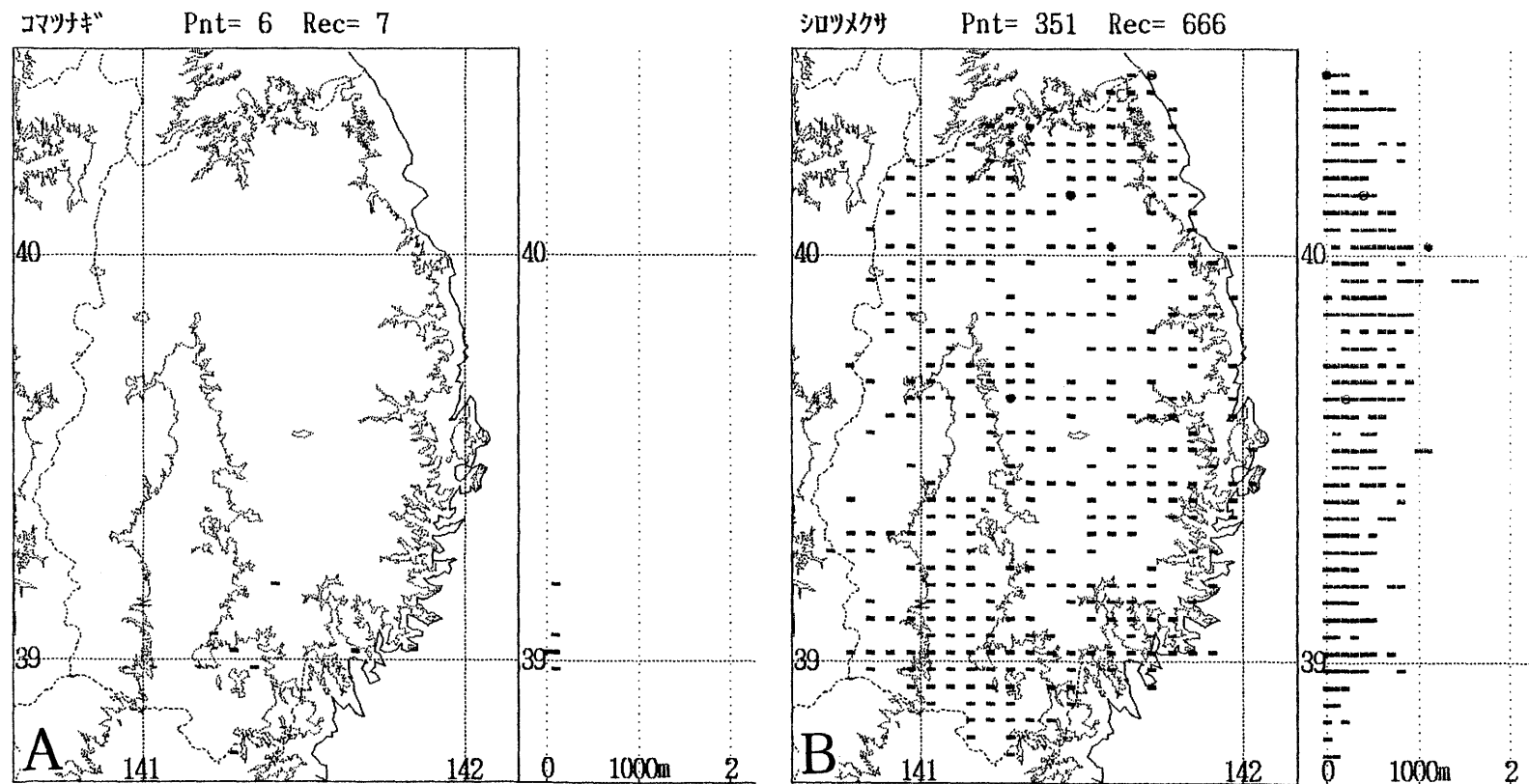


図 8. A: *Indigofera pseudotinctoria*. B: *Trifolium repens*.

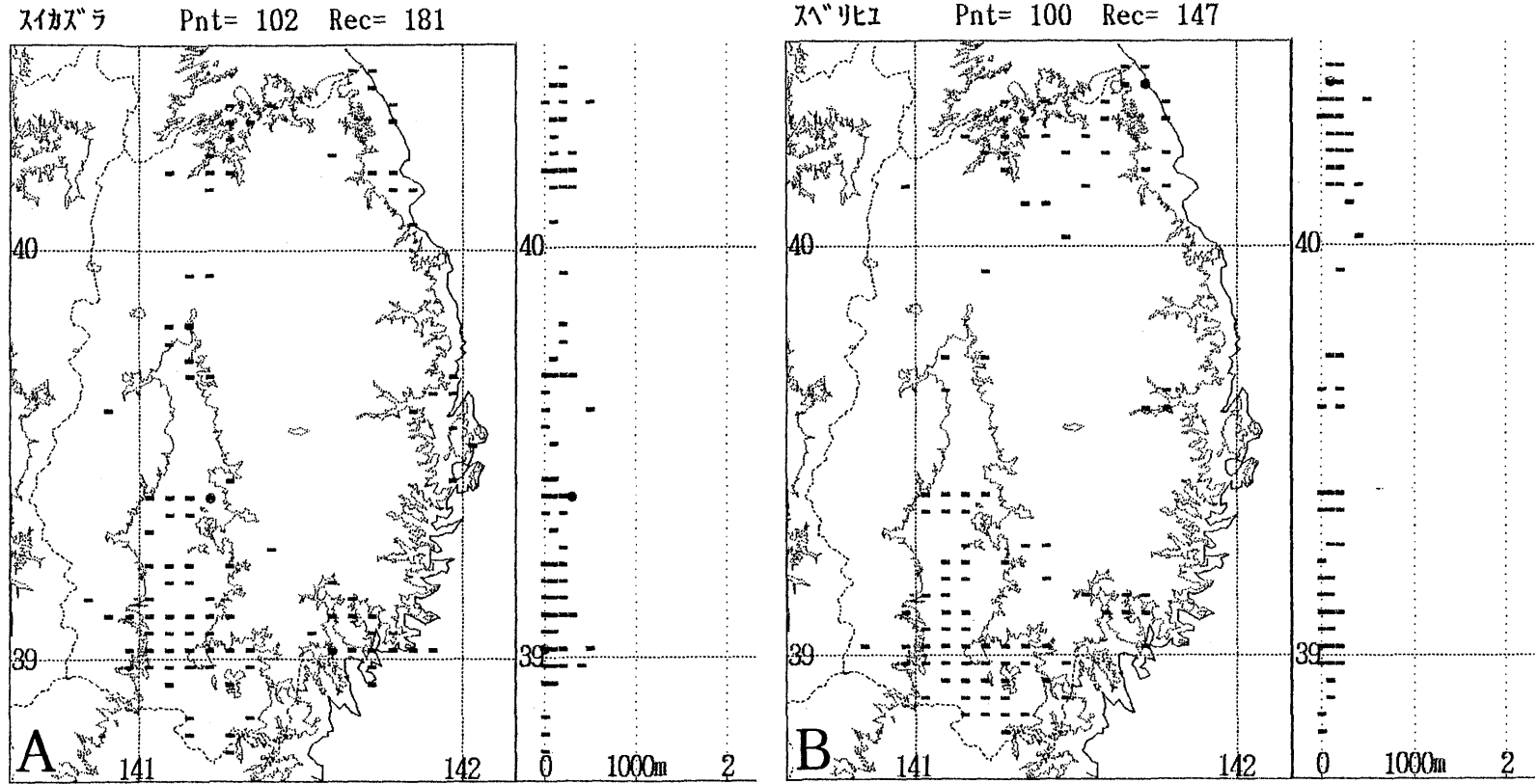
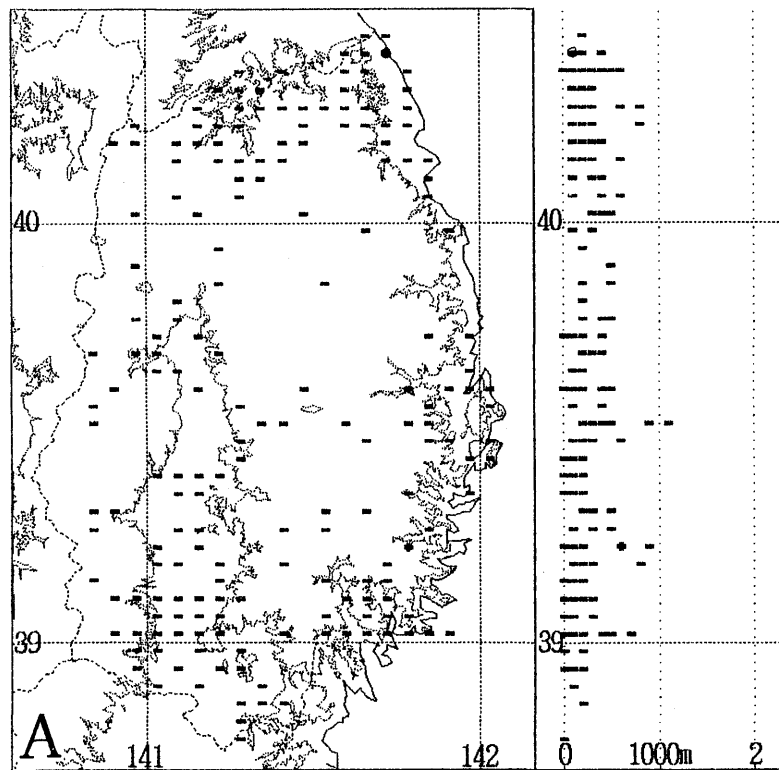


図 9. A: *Lonicera japonica*. B: *Portulaca oleracea*.

タケノグサ Pnt= 182 Rec= 266



チカラシバ Pnt= 85 Rec= 128

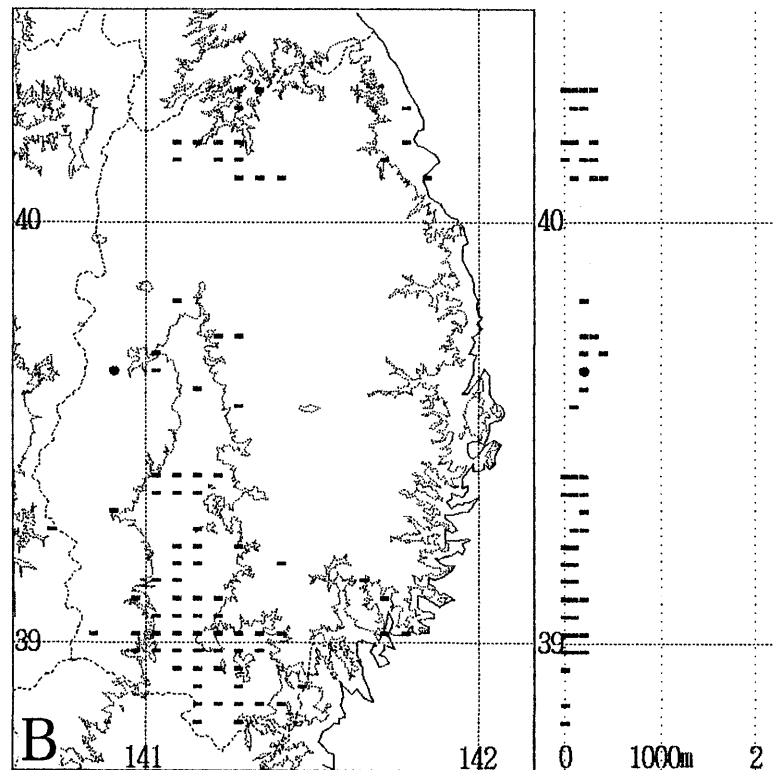


図10. A: *Macleaya cordata*. B: *Pennisetum alopecuroides*.

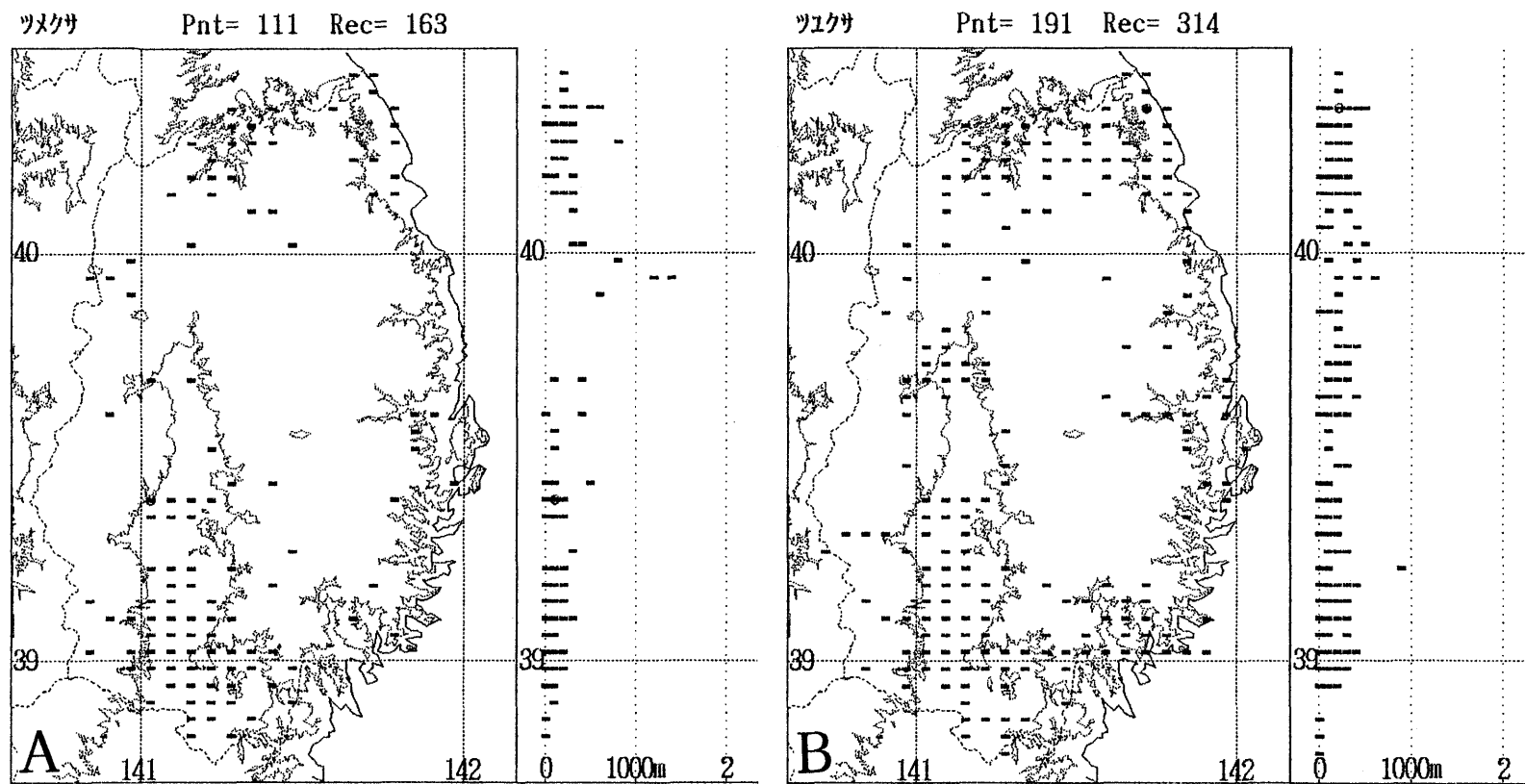
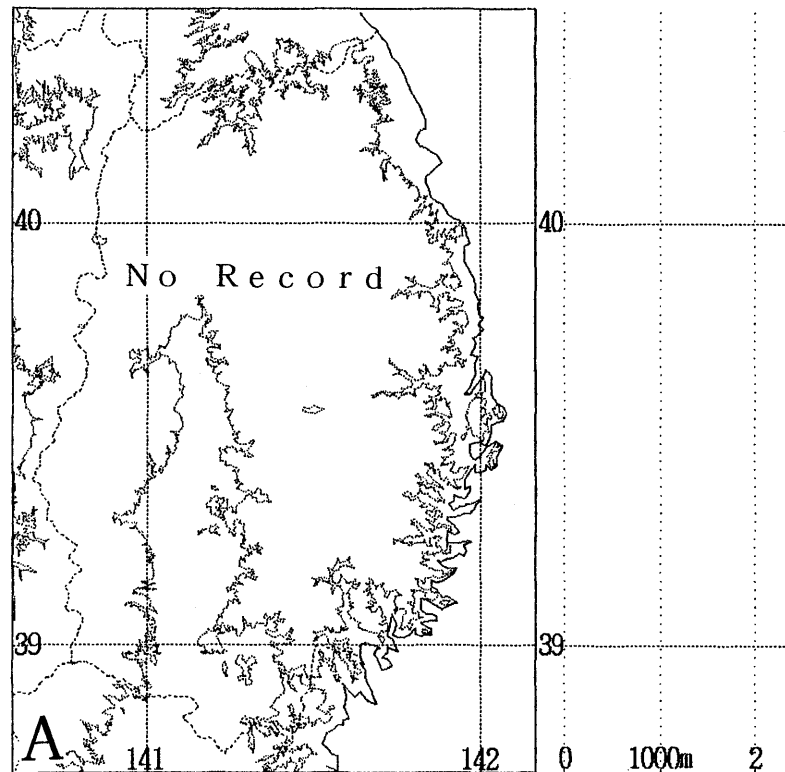


図11. A: *Sagina japonica*. B: *Commelina communis*.

テイカカスラ



ドクダミ Pnt= 118 Rec= 185

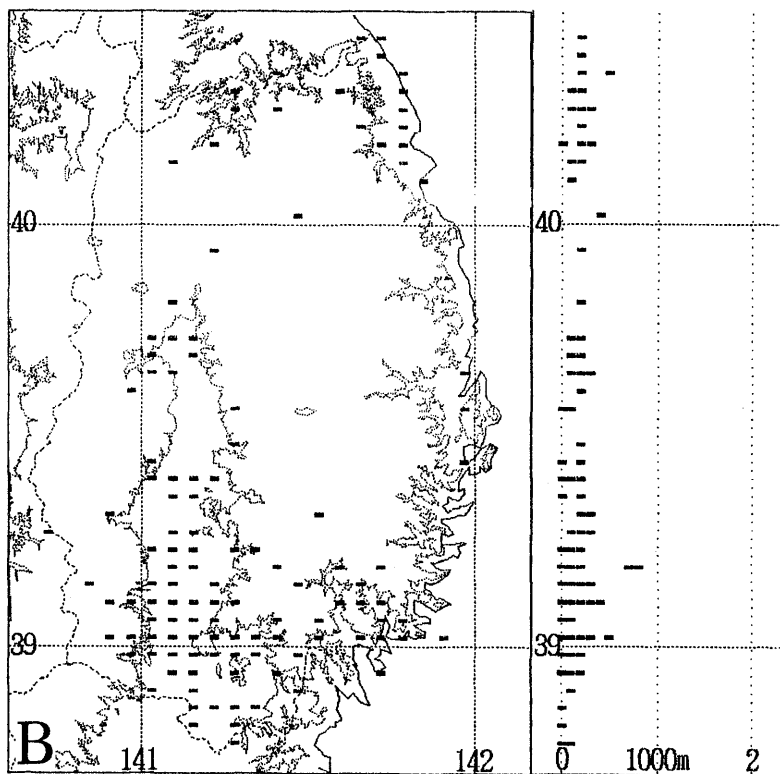


図12. A: *Tracherospermum asiaticum*. 記録なし. B: *Houttuynia cordata*.

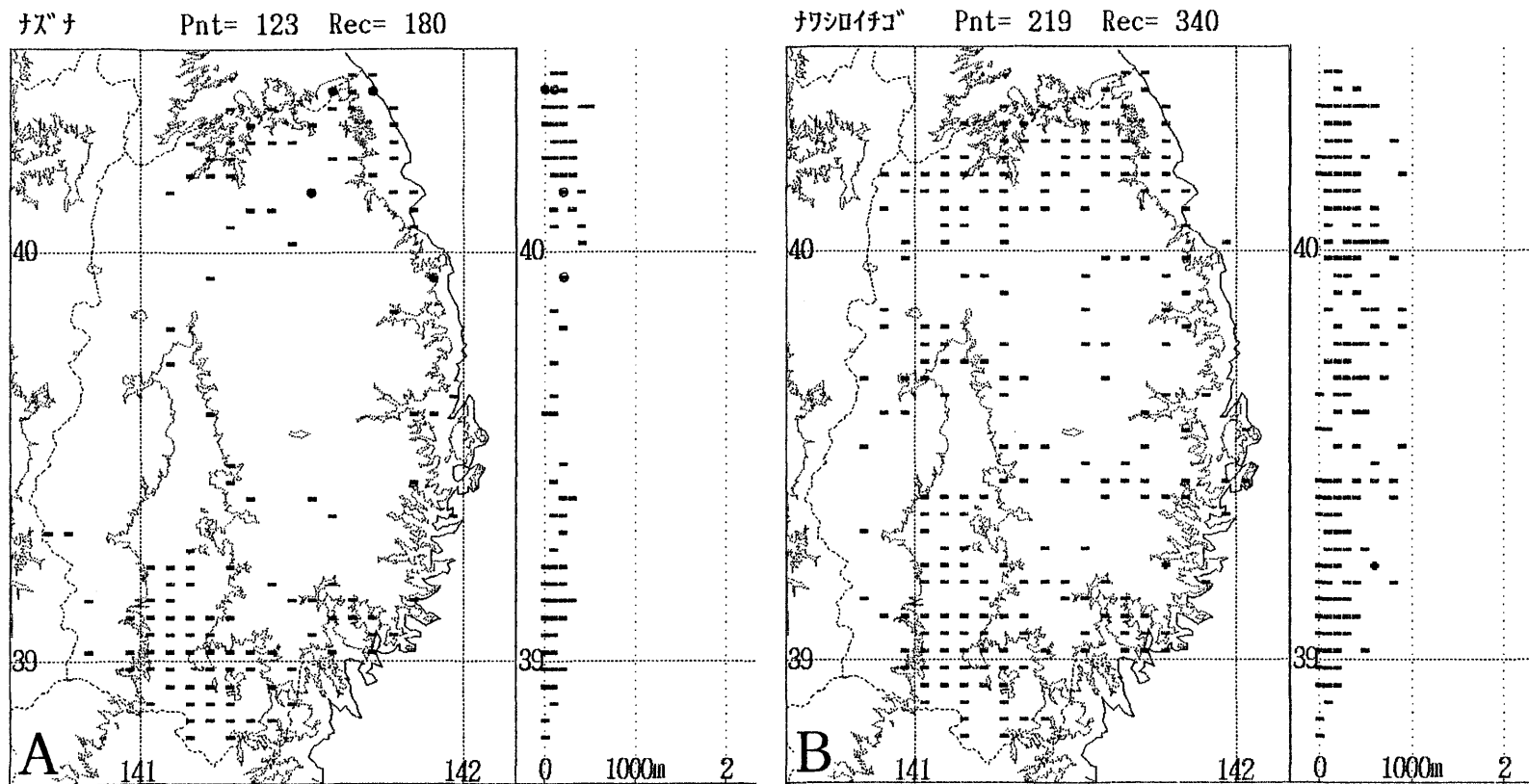


図13. A: *Capsella bursapastoris*. B: *Rubus parvifolius*.

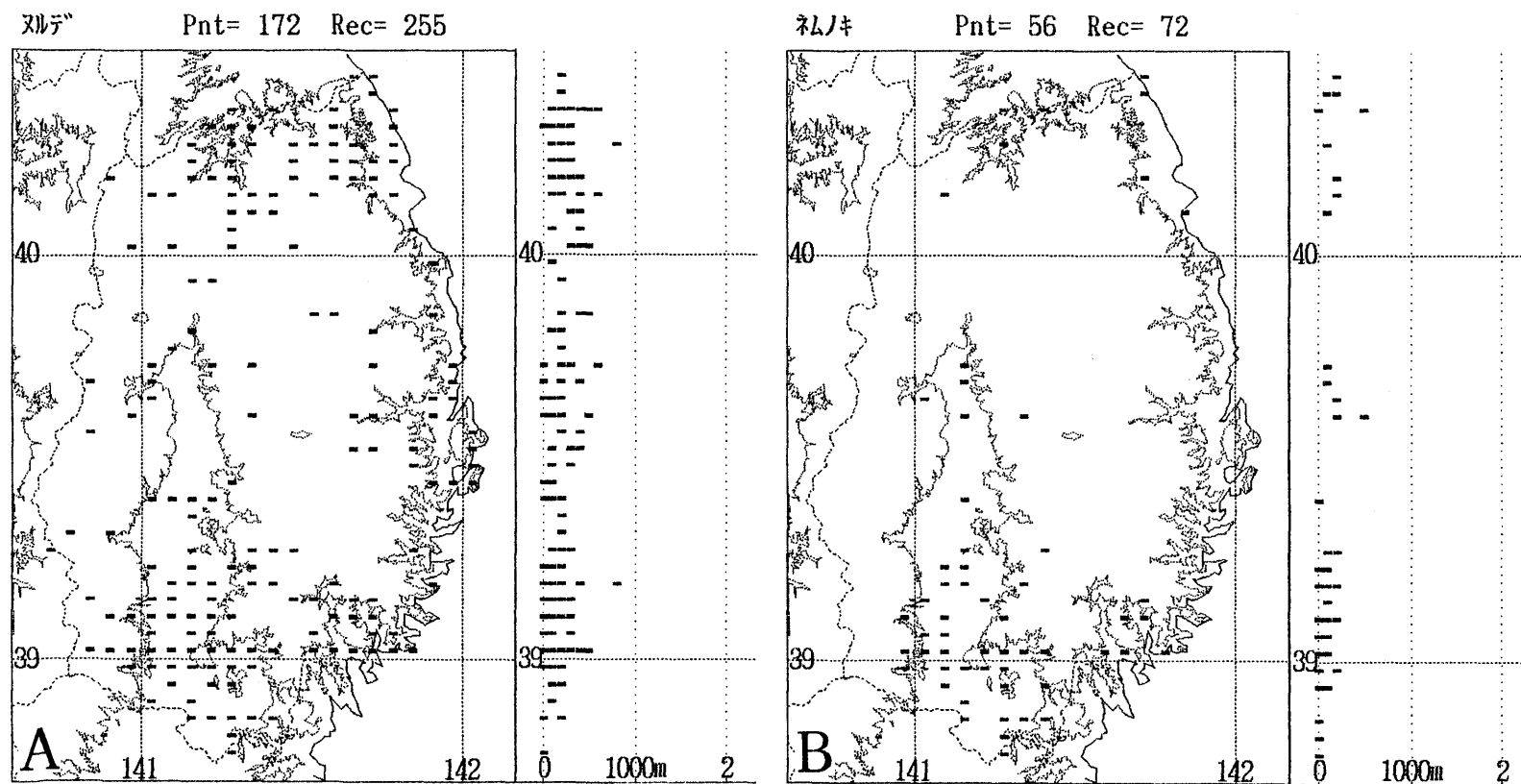


図14. A: *Rhus javanica*. B: *Albizia julibrissin*.

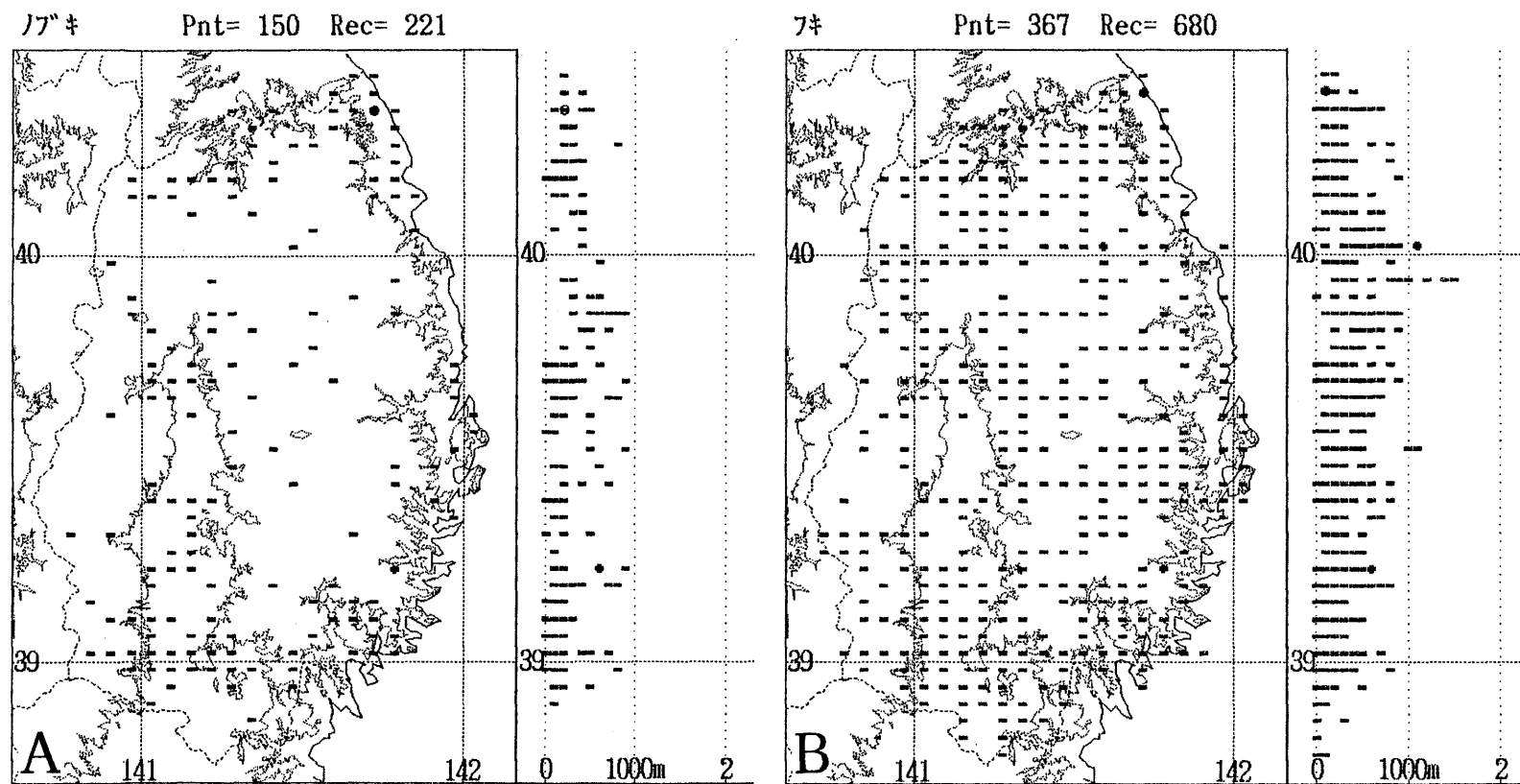


図15. A: *Adenocaulon himalaicum*. B: *Petasites japonicus*. フキとアキタブキは区別していない。

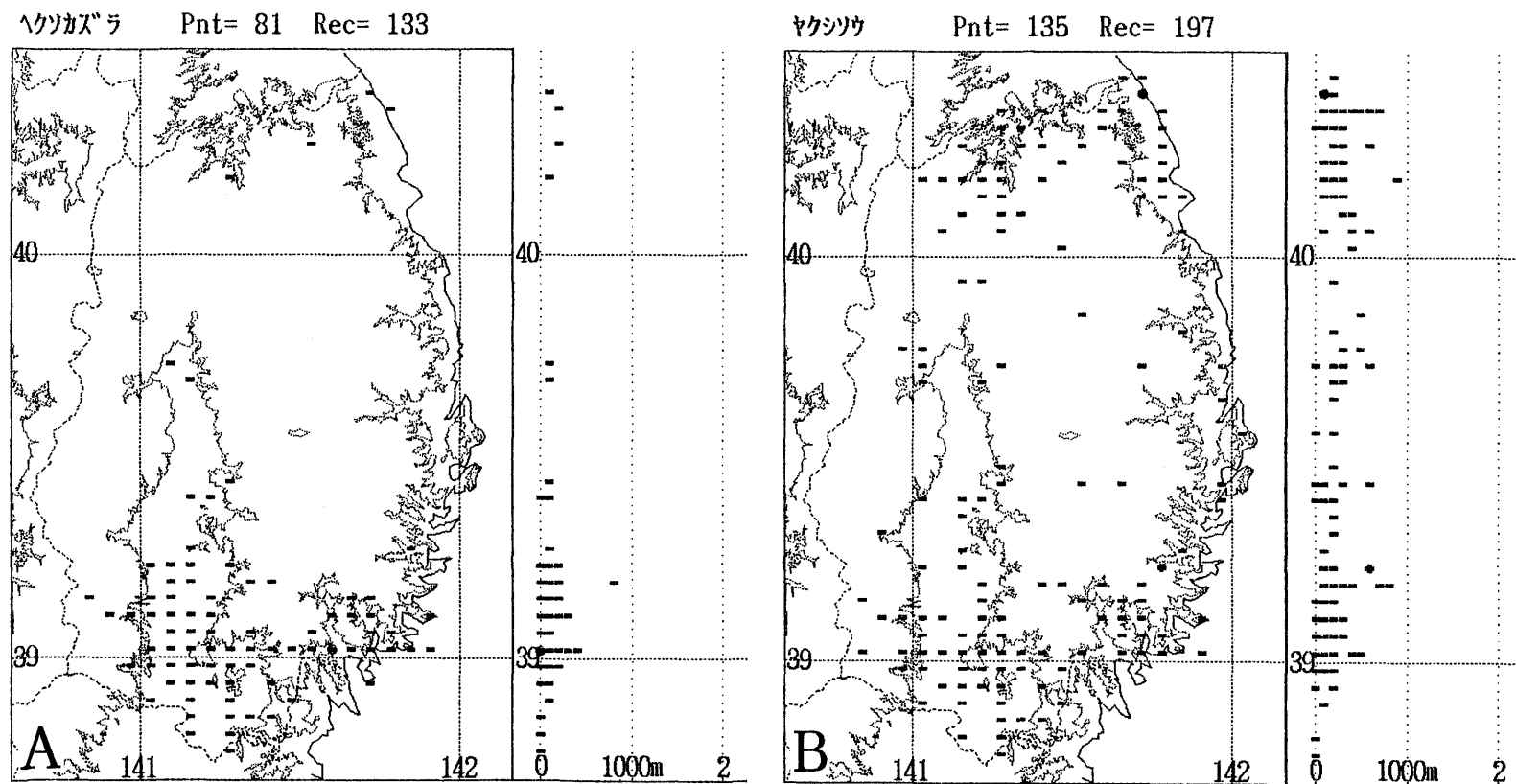


図16. A: *Paederia scandens*. B: *Youngia denticulata*.

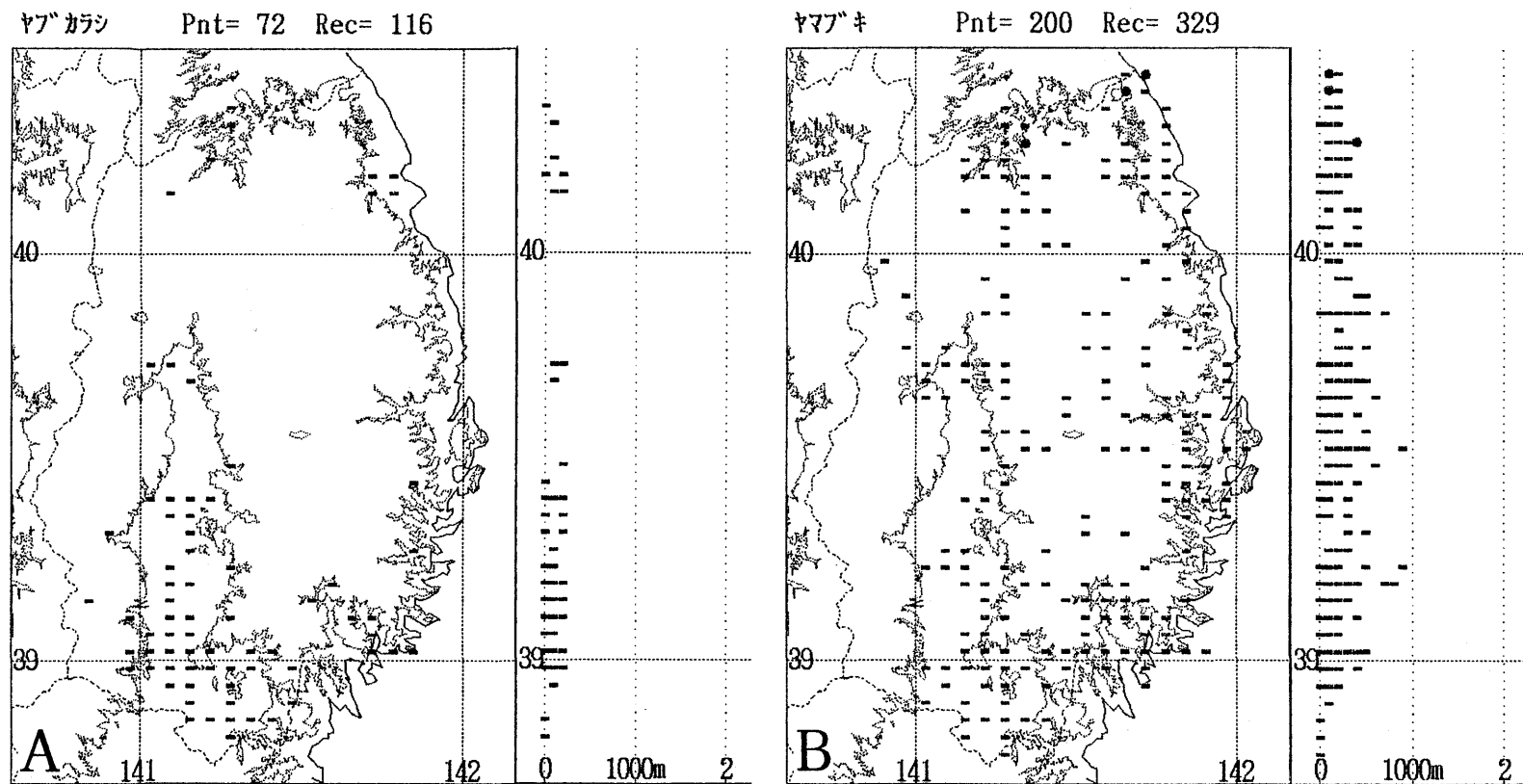


図17. A: *Cayratia japonica*. B: *Kerria japonica*.